

知床半島の利用に係る将来のゾーニングイメージ（案）について

■本資料の位置づけ

- ・本資料は、平成29～30年度の「知床国立公園利用のあり方に関する懇談会」及び令和元年度の行政間会議での議論を踏まえ、知床全体の利用に係る将来像としてとりまとめたもの。
- ・議論の過程では地区別の具体的な利用形態や想定される受入れ人数などの提案もあったが、これらの細部については多様な意見があった。一方で、知床全体の将来的な利用に係る 理念や大筋の方向性については、斜里町役場・羅臼町役場を含む地域関係者間で合意が得られた。よって本資料は、地域関係者間で合意が得られた内容について示したものである。
- ・本資料は地域として目指したい将来像を示したものであり、世界知床自然遺産地域の管理者（環境省・林野庁・北海道）が実現を約束するものではない。ただし、地域の総意として尊重し、関係行政機関等において各種計画や規制等の内容更新及び再編等を検討するための資料（たたき台）とするもの。

※「知床国立公園利用のあり方に関する懇談会」

- ・平成28年度第2回適正利用・エコツーリズム検討会議において、特に先端部地区の利用の在り方について既存ルール見直しを含めた検討を進めていくこととなった。
- ・このため、知床国立公園の利用のあり方について地域関係者の意見を集約し、今後の既存ルールの見直しの参考とすることを目的に設置。H29・30年度で計6回開催。

<構成員>

（地域関係者）ウトロ地域協議会、ウトロ漁業協同組合、斜里第一漁業協同組合、知床斜里町観光協会、知床ガイド協議会、斜里山岳会、知床自然保護協会、斜里町小型観光船協議会、（一財）自然公園財団、（公財）知床財団、斜里町立知床博物館、羅臼漁業協同組合、知床羅臼町観光協会、羅臼山岳会、知床羅臼観光船協議会、羅臼遊漁釣り部会、羅臼町郷土資料館
（行政）環境省、林野庁、北海道、斜里町、羅臼町

※「知床国立公園利用のあり方に関する行政間会議」

- ・懇談会の結果を踏まえ、知床国立公園の利用に係る既存制度やルールの見直し方針を検討する。（令和元年度に進め方を決定、令和2年度から具体的検討に着手）

<構成員>

環境省、林野庁、北海道、斜里町、羅臼町、知床財団